

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	声優基礎講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験58年 アニメ、吹き替え、ナレーションと幅広く活動。国民的アニメでのナレーションを担当したことで有名。また、ディズニーリゾート内のショーやパレードなどで長きに渡って演じ続けており、代表作の1つ。駅の自動放送も担当していた。				
授業概要					
声優にとって必要な基礎能力(発声、滑舌、イントネーションなど)の習得。					
到達目標					
文字を読むだけではなく、相手に伝えるということを理解し、場面に合わせての演じ分けができるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	リズム・表情・発声・反射神経を同時に使うメソッド 発声・滑舌・リズムを兼ねたメソッド
【前期】 6～10回目	感情表現について 役を作るときのヒントの探り方
【前期】 11～15回目	インプロとは イマジネーションの中で言葉を伝える
【前期】 16～20回目	滑舌訓練について 二人でラジオの公開録音
【後期】 1～4回目	滑舌とイントネーションについて 唇と顎のアクティビティ
【後期】 5～8回目	音圧を増すメソッド 滑舌とリズム
【後期】 9～12回目	意識を上げる、笑いで腹筋を鍛える アクセントテキスト、早口滑舌発声
【後期】 13～15回目	シーンの情景のイメージ 外郎売り
【後期】 16～19回目	「語る」伝えるという事 滑舌と息継ぎのメソッド
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	固定観念に捕らわれず、自由な発想で楽しむことを忘れずに受けてください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	発声基礎講座	授業形態 / 必・選		講義		必修
		年次		1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位	
科目設置学科コース	声優養成コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐					
担当講師 実務経歴	実務経験21年 声優・ナレーターとしてアニメ、テレビ、ドラマ、洋画の吹き替えに多数出演している。					
授業概要						
正しい声の出し方、アクセント、イントネーションを学ぶ。						
到達目標						
発声ができるようになるだけではなく、場面に合わせての役作りや、時間的制限のあるナレーションでも、しっかりと声を出せる技術を習得することを目標とする。						

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	腹式呼吸、ロングブレス、ショートブレスについての解説
【前期】 6～10回目	ア行からワ行まで発声練習の方法
【前期】 11～15回目	アクセント練習方法 表情筋トレーニング方法
【前期】 16～21回目	一分間で自己紹介 母音交錯について
【後期】 1～4回目	前期のおさらい 1万時間の法則について
【後期】 5～8回目	体内時計の習得方法 1分間スピーチ
【後期】 9～12回目	番宣ナレーション40秒 初見読み
【後期】 13～16回目	音読：朗読のポイント説明 実際に動きながらやり、距離感やスピード感を実感する。
【後期】 17～19回目	自己評価 滑舌練習：読み合わせ、読み方確認。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	授業時間外での復習が非常に大切です。日々の反復を頑張ってください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	セルフスタイリング講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経歴18年 20代からヘアメイクの第一線で活躍し、当時Make-Upを中心に活動しているArtistが主流の中、Hair Designに特化したArtistとして活動。大手企業広告やライブ、舞台などの仕事を幅広く手掛ける。				
授業概要					
キッチンとしたメイクの方法を学び、自分をより良く魅せる為のスキルを習得します。					
到達目標					
各場面(普段、ステージ上、プロフィール写真用など)に合わせ、それぞれ異なったメイクが必要となるので、自分に合ったメイクの方法を見つけることが目的です。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	・スキンケアについて ・クレンジングについて
【前期】 6～10回目	・肌の特徴について ・肌のトラブルについて
【前期】 11～15回目	・メイク用品の基礎知識 ・顔の特徴について(自分の顔を分析する)
【前期】 16～21回目	・ベースメイクについて ・アイシャドウについて
【後期】 1～5回目	・アイラインについて ・マスカラについて
【後期】 6～10回目	・眉ラインについて ・リップラインについて
【後期】 11～15回目	・色の選び方 ・ヘアメイクとの組み合わせ方
【後期】 16～19回目	・トータルのメイクプランニングについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	間違った方法でメイクをすると、肌のトラブルの原因にもなりますので、基本から学びましょう。メイク一つでその人自身の印象も変わるので、自分をキッチンと表現する方法を見つけましょう。日々のスキンケアも大切ですので、生活習慣を疎かにせず、自分の健康も考えてください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	舞台演技講座Ⅰ	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験22年 劇団にも所属し、数々の舞台公演を経験。 また声優としては外画の吹替を中心に活動。				
授業概要					
舞台における様々な用語や、舞台上における演技に関する講義。 役を演じるということ、を、さまざまな観点から考察し、学ぶ。					
到達目標					
舞台上で演技をする為に必要な空間の共有や、相手とのやり取りの方法を習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	イントロダクション 自己紹介、授業の趣旨説明、舞台用語に関する講義
【前期】 6～10回目	舞台上での演技とマイク前での演技の違いについて
【前期】 11～15回目	舞台における表現方法、発声方法のメソッド
【前期】 16～21回目	舞台の作り方
【後期】 1～5回目	発想カトレーニング 一つの題材についてどこまで発想を膨らませられるか
【後期】 6～10回目	読解カトレーニング 台本の原稿から何を読み取るか
【後期】 11～15回目	台本を使用して演技指導
【後期】 16～19回目	対応力強化 相手との芝居のやり取りについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	舞台における演技は声優としての演技とはまた違った難しさがありますので、この授業を通じてそれを感じ、レベルアップしましょう。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	表現基礎講座	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験38年 1984年テレビアニメでデビュー。1989年には声優仲間とコーラスグループを結成。以降も声優としてアニメや洋画の吹き替え等で活動中。				
授業概要					
役者としての表現力を高めていく為の、様々なメソッドを紹介する。					
到達目標					
現場に出ても即対応出来るような表現力の基礎を身に付ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	自己紹介。 授業の趣旨や注意事項を説明。 インプロについての方法論
【前期】 6～10回目	各種テーマのインプロによる対応力の強化① 他人のオファーを受け止め、自分のプランを重ねるメソッド
【前期】 11～15回目	各種テーマのインプロによる対応力の強化② 自分が思った事を表現する為のメソッド
【前期】 16～19回目	各種テーマのインプロによる対応力の強化③ 相手のプランに乗っかる柔軟性を求める為のメソッド
【後期】 1～5回目	感情表現とは 感情を表現する為の方法論
【後期】 6～10回目	絵本を題材にした演劇のメソッド
【後期】 11～15回目	台詞朗読のメソッド
【後期】 16～20回目	日本舞踊の基本所作について
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	日常生活の中から、相手の感情を読み取るという意識を持ち、実際の表現に繋げていく準備をしておく事。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	演技基礎講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験18年 劇団に所属し、退団後声優養成所を経て声優として活動。多くの洋画の吹き替えやTV番組ナレーション、アニメ、ゲームに出演。				
授業概要					
声のみの演技・舞台上での演技問わず、演技全般における「感情」という点にフォーカスをあて、芝居に対する力を高める。					
到達目標					
多様なシチュエーションにおける喜怒哀楽の感情を身に付け、様々な形態の演技に対応出来るようにする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	イントロダクション 意味のない台詞から自分の素直な気持ちを見つめる
【前期】 6～10回目	スイッチの切り替えとメリハリ 相手から渡された分だけ受け取る
【前期】 11～15回目	集中力を感じて見る 手の感覚から自分を見つめる
【前期】 16～19回目	五感+頭(心)の中の気付き+α アドリブやエチュードから得られること
【後期】 1～5回目	なぜ台本を覚えるのか 個人プレーとチームプレー 突き詰め方のレベル
【後期】 6～10回目	時間の使い方 キャラクター作りの前に、自分の感情を信じる
【後期】 11～15回目	“自分”で演じてみることの大切さ イメージを掴む、変化をつける、ベクトルを変える
【後期】 16～20回目	逆の作用(思い)の利用 ノームスを目指して集中力キープ
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	エチュードによる感情表現は、相手がどのような感情にいるかを組み取る事が重要で、それは台本ありきの演技にも通じる。その点を意識しながら、実際の演技に落とし込むこと。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	分野別講座	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経歴24年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。				
授業概要					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
到達目標					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～8回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 9～15回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 16～19回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 1～4回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 5～9回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 10～13回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 14～19回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味がない、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ダンスⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験27年 ダンススタジオ主宰、イベント、テーマパーク・ショー等のダンサー出演振付、振付アシスタントとして活動。				
授業概要					
身体の姿勢、使い方のチェックから、基本的なステップ(リズムの取り方)を学ぶ。 発表会を通して、ダンスの基本を習得する。					
到達目標					
ステージングや、舞台演出に必要なとなる基本的な動きを習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	姿勢チェック。腕、肩甲骨の使い方チェック 腹筋、腕立て。タオルを使って座位のストレッチ。
【前期】 6～10回目	BOX、リトミックもどき。左・右/手・足を同時に別の動きを行う練習。 リズムとステップの練習曲
【前期】 11～15回目	リズムステップの練習 コンビネーション
【前期】 16～20回目	リズムステップチェック 前期テスト曲振り付け
【後期】 1～4回目	発表会振り付け
【後期】 5～8回目	衣装合わせ・振り固め
【後期】 9～12回目	衣装付きリハーサル・振り固め 発表会
【後期】 13～15回目	バトマン バランス シエネ
【後期】 16～19回目	後期テスト曲振り付け
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	踊る為には筋力、柔軟性、姿勢が大切になるので、毎日のトレーニングに努めてくださ
使用教科書	必要に応じて適宜資料配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	声優歌唱Ⅰ		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験33年 ニューウェーブオペラで鮮烈なオペラデビューを飾る。バロックオペラから現代オペラ・オペレッタ・ミュージカルまで多くの作品に出演。 狂言とオペラの東西文化融合舞台で活躍。コンサートでは高い身体能力を活かした華麗なステージとMC(語り)で好評を博し、他に第九や宗教曲のソリストとしても活躍している。				
授業概要					
歌を歌う為に必要なトレーニングを行う。					
到達目標					
歌唱に必要な基礎技術(呼吸、発声、姿勢、リズム、など)を習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	呼吸法 リップロール
【前期】 6～10回目	喉のストレッチ 腹式呼吸、横隔膜を使っの呼吸、鼻呼吸
【前期】 11～15回目	壁を使っの発声 舌を出して口を開ける練習
【前期】 16～21回目	リズムの練習 姿勢を良くするための練習
【後期】 1～5回目	床に座ってストレッチしながら発声 鼻だけで歌う練習
【後期】 6～10回目	顔の力を抜いて歌う練習 椅子を使っ腹から声を出す練習
【後期】 11～15回目	個人歌唱指導
【後期】 16～19回目	グループ歌唱指導
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	歌を上手に歌う為には、歌の練習よりも基礎練習が大切です。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ナレーション基礎(発声&滑舌)	授業形態 / 必・選		実習		必修	
		年次		1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位		
科目設置学科コース	声優養成コース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	☒	非該当	☐
担当講師 実務経歴	実務経験32年 元テレビアナウンサー。総合司会やメインキャスターを務め、リポートのほかにナレーションや企画・構成・取材も担当するなど活躍。ラジオ番組にも多数出演。						
授業概要							
日本語の発音についての基礎を学びます。							
到達目標							
正しい日本語が話せるようになることを目標とします。							

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	あいさつの練習 名前をしっかり発音 プリント朗読
【前期】 6～10回目	母音口形、正しい口の形を覚える 母音練習プリント、母音組合せ単語の発声方法
【前期】 11～15回目	音を出す時のコツ 2拍フットの練習
【前期】 16～20回目	長母音練習 鼻濁音練習
【後期】 1～5回目	滑舌練習 無声音の練習 破裂音
【後期】 6～10回目	子音練習 舌の位置確認
【後期】 11～15回目	ナレーション読みの為の基礎練習 CM原稿を使つての基礎練習
【後期】 16～20回目	TV番組宣伝ナレーションでの基礎練習 台詞の滑舌練習
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	言葉の組み合わせ方で発音の方法が変わります。 何をするにしても基礎が大切ですので、疎かにしないで真剣に取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	アフレコⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験10年 声優としてアニメ・ゲーム・ドラマCDなどで活躍する。				
授業概要					
実際に映像を目の前にして演技を行う際のスキル、及び現場でのマイクワーク等を含めた基礎的な部分を学ぶ。					
到達目標					
アフレコを行う際の基本スキルの習得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	アフレコを行う際のポイント・注意点の説明 各仕様機材の説明(コンデンサーマイク・キューボックス・DAW・ミキサー等)
【前期】 6～10回目	台本読み キャラクター毎の演技の使い分けについて アフレコ録音、及びフィードバック
【前期】 11～20回目 【後期】 1～20回目	上記内容を繰り返し練習。 授業毎にフィードバックを行い、改善点の確認。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	アフレコはグループで1つの作品を作っていく作業の為、1人の遅れが全体の遅れに繋がる。故に、事前の台本の読み込み等を徹底する事。 また、台本の取り扱いには充分注意すること。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	タレント実地演習 I	授業形態 / 必・選	演習	必修
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	芸能タレント科 全コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐			
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。			
授業概要				
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。				
到達目標				
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。				

授業計画・内容	
1回目～2回目	学園祭準備①②
3回目～4回目	学園祭本番①②
5回目	学園祭片付け、原状回復
6回目	コースイベント
7回目	年度末公演
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布